



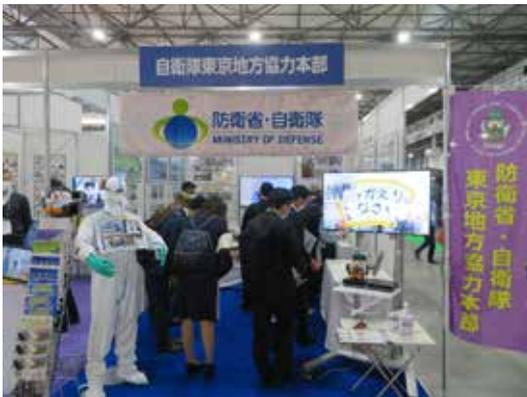
危機管理産業展で活動をPR

自衛隊東京地方協力本部（本部長 牧野陸将補）は、10月21日から23日までの間、東京都総合防災部との調整により、東京ビッグサイトで開催された「危機管理産業展（RISONCON TOKYO）2020」の「東京都パビリオン」に参加して広報ブースを出展した。

ブースでは、陸・海・空自衛隊の活動や災害時に役立つ身近なものを使って行う応急処置（東京地本LIFE HACKなど）の映像と新型コロナウイルス感染症対応の際に空港や大型客船等で行動した隊員が着用したものと同様のタイベックスーツ（防護服）を展示した。また、令和2年7月豪雨等の災害派遣活動の写真のほか、退職自衛官の就職支援制度や予備自衛官等制度の説明パネルを掲示して、自衛隊及び東京地本の業務を紹介した。

東京地本のブースには多くの来場者が立ち寄り、災害派遣活動への労いの言葉のほか、「退職自衛官を採用する場合は、どのような手続きが必要か」「防災教育を実施したいがどうすればよいか」等の質問が多数あり、防衛省・自衛隊の活動に対する関心が高まっていることが伺えた。

東京地本は今後も、「自衛隊いいね！」と思われることを広く拡散できるよう、様々な機会を捉えて情報発信していくとしている。



本部長がラジオ出演～防衛大学校の魅力を紹介～

自衛隊東京地方協力本部長 牧野陸将補は10月28日、中央区FMラジオ局「中央エフエム」の番組に出演し、防衛大高校での学生生活などについて紹介した。中央エフエムは東京都中央区唯一の地域コミュニティFMとして地域に根差した情報を発信しており、東京地本は地域のタイムリーな情報を放送している番組「Hello! RADIOCITY」内の「ナゼナニ!?もっと教えて自衛隊!」に定期的に出演している。

牧野本部長は番組の中で、陸上自衛官として不発弾処理に携わっていた父親の姿を見て自衛隊への入隊を決め、陸上自衛隊少年工学校（現在の高等工学校）へ進学したエピソードを語った。また、防衛大高校在学中には、同校が東南アジアを主体とした国々の留学生を受け入れることから、留学生との交流を深めることができ、長期休暇の際には彼らの母国を訪問した思い出や、任官後の職務においてもこれらの国際交流の経験が役立っていること、防大同期の留学生も現在、アジア等世界各国で活躍していて、今も強い絆で結ばれていることなどを紹介した。パーソナリティーからは「今まで知らなかった防衛大高校や高等工学校のことをよくわかり、心強く感じた」等の感想が聞かれた。

中央区を担当する港出張所は、ラジオ出演を通じてリスナーに自衛隊を身近に感じてもらえるよう、今後もさまざまな自衛隊情報を紹介していきたいとしている。

